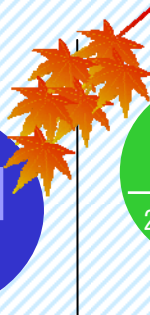


# うるおい木曾



Vol.33  
2008・10月

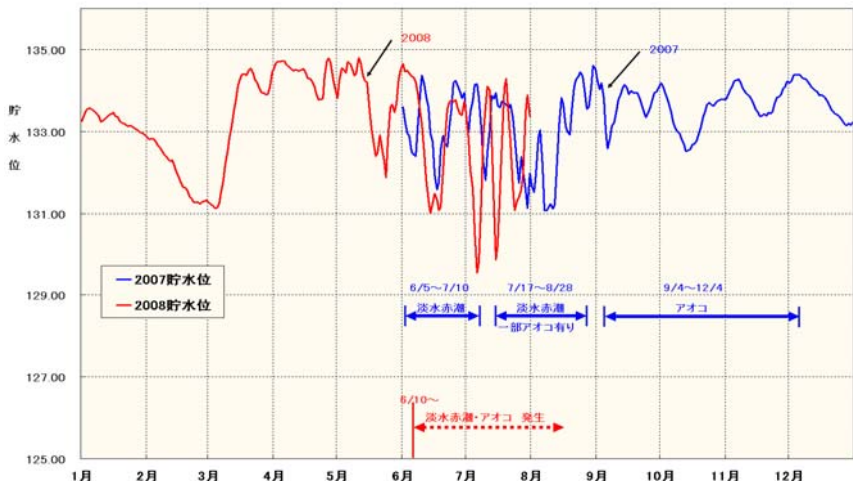
## 蜂屋調整池水質障害対策への取り組み！

蜂屋調整池は、美濃加茂市、関市、坂祝町、富加町に農業用水を供給する有効貯水量約48万トンの調整池です。池周辺には桜、つつじ等300本が植樹され、水辺に映る緑と花のおりなす景観は、地域の方々のいこいの場としても利用されています。

近年、蜂屋調整池の水面に、梅雨時期から夏場にかけて、アオコ、淡水赤潮が発生するようになり、水辺の景観を著しく損ねるようになってきました。また、その浮遊物が畑栽培の散水栓ノズルにつまる障害が発生するようになりました。



蜂屋調整池（4月撮影）



蜂屋調整池水位曲線とアオコ発生状況



蜂屋調整池で発生したアオコ

アオコ、淡水赤潮の発生する要因と対策を検討するために、平成19年から週間隔で水温、溶存酸素量、電気伝導率、濁度の測定と湖面状況の撮影を開始しました。また、月間隔で水素イオン、化学的酸素要求量、全窒素、全燐、クロロフィルを測定し、発生する要因の追求に取り組んでいるところです。

本年からは地元岐阜県立加茂農林高等学校の御理解を頂き、生徒さんにも対策の検討に加わっていただけることになり、手始めに8月25日には水源地である岩屋ダムから木曾川右岸施設の視察を実施しました。

具体的な検討はこれからですが、土地改良区の方々、加茂農林高校生並びに地域の方々と連携をしながら、良質な用水の供給と水辺景観の維持に向け取り組んでいきます。



土地改良区と高校生の皆さん



調整池見学の様子（施設）



調整池見学の様子（水面）

### （転出者）お世話になりました

▼10月1日付 尾堂文昭(木曾川水系連絡導水路建設所)、中川義久(豊川用水総合事業部)、森尾真士(関西支社)

### ■人事異動■

### （転入者）宜しくお願いします

▼10月1日付 水谷琢也(長良川河口堰管理所)

※氏名の後ろの括弧書きは異動後、異動前の事務所です。

# 木曾川用水で3年ぶりの節水対策！

木曾川用水の水源である岩屋ダムでは7月以降の降雨が極端に少なく、平成17年以來3年ぶりの節水対策を行う事態となりました。

岩屋ダム地点の降雨状況

	6月	7月	8月
平成20年の雨量	314mm	142mm	350mm (216mm)
平年の雨量(月累計値)	318mm	378mm	282mm
平年比	99%	38%	124% (77%)

※8月の( )は、27日までの雨量

※8月28日～31日にかけて、134mmの降雨があった。

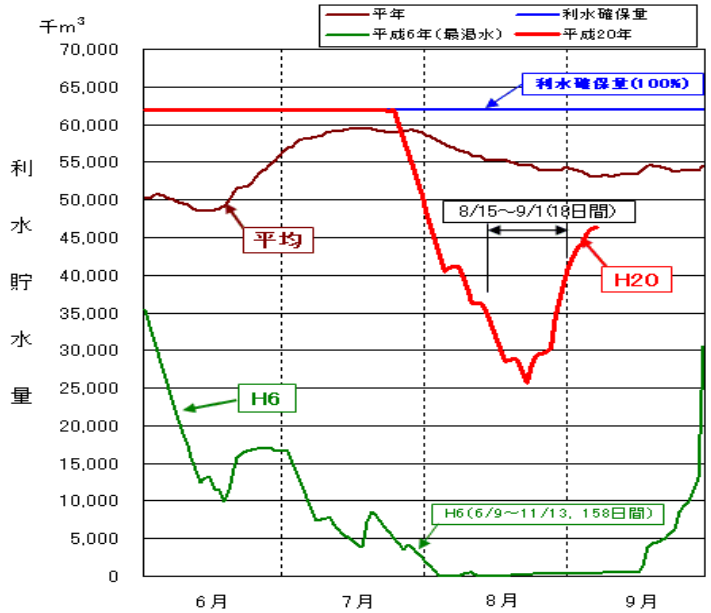
今年は、7月初旬からの降雨量が平年に比べて少なく、岩屋ダムの貯水量が低下してきたので、木曾川の流況や気象予報などから節水対策について検討し、8月15日から第1回節水対策(節水率=農業用水10%、水道用水5%、工業用水10%)を始めました。その後も岩屋ダム周辺にはまとまった降雨が少なく、岩屋ダムの貯水量がさらに低下してきたため、8月22日からは第2回節水対策(農業用水20%、水道用水10%、工業用水20%)へと、節水対策を強化することになりました。

8月23日には、ついに岩屋ダムの貯水率が41.5%にまで低下し、さらに貯水量の低下が進行すれば第3回節水対策もやむを得ないという状況の中、8月28日に東海地方に前線を伴う局地的な降雨があり、これにより岩屋ダム地点では8月28日から31日までの4日間で134mmの降雨を観測し、9月1日には岩屋ダムの貯水率が63.9%にまで回復したので、9月1日に木曾川用水の節水対策を解除しました。

18日間にも及んだ節水対策ですが、木曾川用水をご利用の皆様の多大なご協力により、無事に節水対策を終えることができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

■木曾川用水の節水対策は、水資源機構と岩屋ダムを利水として利用する関係機関で組織する「木曾川用水節水対策協議会準備会」により検討しています。

岩屋ダム利水貯水量曲線



新米稲刈りの様子



岩屋ダム(貯水率41%)



岩屋ダム(満水)

## 愛知の新米初出荷式が開催される！

8月13日(水)8時30分からJAあいち海部鍋田支店集荷場(愛知県弥富市)で木曾川用水の水により育った新米品種「あきたこまち」の初出荷式が愛知県内で一番早く行われました。

初出荷式は主催者のあいさつ、一日お米検査官を命じられたミス弥富がお米検査セレモニーを行い、引き続き、新米の「あきたこまち」を積み込んだトラックの前で出発式のテープカットを行われ、消費地へ向けて出発しました。

なお、今年の作柄状況は平年並み程度となっています。



ミス弥富によるお米の検査



出発式 テープカット

## 木曾川用水総合管理所に夏期実習生がやってきた！

毎年恒例の夏期実習生が今年も2名、木曾川用水総合管理所で管理業務の実習を行いました。

夏期実習生とは、大学等の農業土木系の専門課程に在籍する学生を対象に、水資源機構や農林水産省の現場事務所で様々な業務を体験し、農業土木に対する理解を養う目的で毎年行われています。実習期間は2週間程度です。

この夏、木曾川用水総合管理所には三重大学と東京農工大学からそれぞれ1名ずつ実習にやってきました。2週間という短い期間で、除塵作業や分土工操作、木曾川右岸施設・濃尾第二施設の視察、水源地である岩屋ダムでのダム管理等一通りの管理業務の実地体験を行いました。

実習を終えた彼らの感想はいずれも、当初イメージしていた“管理”とはあまりにもかけ離れた実体に対する驚きのようなものでした。そして管理業務の重要さと今後の更なる必要性について気づいてもらったようです。

このように将来を担う学生に管理業務の意義を理解してもらい、職員一同喜びを感じています。

### 「木曾川用水の管理業務の体験を振り返って」

三重大学生物資源学部3年 佐本 康人

この実習での二週間は、私にとって、とても充実した日々となりました。職員の方々には、お忙しい中でたくさんの体験をさせていただき、本当に感謝しています。とりわけ体験全体を通じて、私が最も印象強く、また一貫して考えさせられたテーマは「管理業務の意義」についてです。これまでの私は、「管理業務」という言葉に対して、創造性がなく、それほど労力を要しない業務というイメージを持っていました。しかし実際はそうではなく、管理業務は重要な業務であり、さらには時代の流れの中で更なる必要性に迫られていることを、屋外の業務でも屋内の業務でも目の当たりにすることが出来ました。

今回の実習での体験は、私自身が一市民、あるいは学問を学ぶ学生としての驚きや発見がたくさんありましたが、加えてこれからの自分の将来を考えるうえでも大いに参考になりました。とりわけ、管理業務に、いままで知らなかった重要性和新たな意義を見出したことは、これからの自分の進む将来にさらなる意義を見出したことでもあったと感じています。自分の将来にかける目的を練り直す上でも、今後大いにヒントにしていきたいと思っています。



実習報告会の様子（佐本君）



実習報告会の様子（近藤君）

### 「木曾川用水の管理業務の体験を振り返って」

東京農工大学農学部3年 近藤 圭

この実習を行う前、なぜ水路は昔のように自然に曲がりくねっていて土手に自然があるような水路ではないのか、コンクリート三面ばかりで流速の早いいかにも危険な水路ばかりあるのか疑問だった。こういったコンクリートの水路は、うまく水が流されていない負のイメージが自分の中で常について回った。こういったことからそもそも水環境の管理とは何なのか分からなくなっていた。まず、この事業所で学んだのは利水で、川から取水した水を無駄なく流すことである。堰は治水のためではなく利水の目的で作られており、そのために水位、流量が厳重に管理されていた。私はまずそのことに大変驚いた。水路はコンクリートで出来ていたが、常に安定した水が流れており、距離はかなりあるが、各箇所にはゲートがあり、遠隔操作、現地操作どちらでも行えるようになっていた。管理においてまず水を流し続けることの重要さがわかった。

二週間本当にお世話になりました。本当にみなさんよくしていただいて、いろいろよいお話もしていただいて、この実習で自分は大変得難い経験をさせていただいたと思います。あつという間の実習でしたが、中身は本当に濃かったと思います。この経験を今後しっかり生かしていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

## 出前講座を行いました！【可児市南帷子小学校】

7月10日、岐阜県可児市南帷子小学校で4年生97名を対象に出前講座を開催しました。岐阜県可児市には木曾川用水の水が水道用水として供給されています。

講座では木曾川用水の水源地でもある岩屋ダムの役割や働き、ダムの種類等を中心に平成6年の大渇水の話を変え、水の大切さを知ってもらう内容にしました。子供たちはダムの水が利水として使われているだけでなく、治水、発電、かんがい等にも大きな役割を果たしていることを知り、驚いているようでした。また、ダムがない生活のシミュレーションを見た子供たちは、ダムを造った方々の願いやダムを造るにあたり移住した方々の思いを理解してくれたことだと思います。私たちはいかに多くの水を利用し、その水で豊かな生活が保たれているのか、そして限りある水を有効かつ大切に使用していかなければならないのだと自覚してもらえたのではないかと感じております。



↑ 出前講座の様子 ↓



■ぼくは、岩屋ダムはどれくらい大きなんだろうと思いました。深さはツインタワーくらいで全体が名古屋ドーム140はい分だということがわかりました。

■水はとっても大切なことを学習できました。海水はコップ126こ分だと氷はコップ3こ分、真水はコップ1こ分だとわかりました。あと、ダムのやくわりのことごとでも分かってダムのことについてもよくわかりました。

## インタビューシリーズ その5 (木曾川右岸用水土地改良区連合)

## 三品 俊宣 氏

シリーズとして木曾川用水事業に関係の深い方へ訪問インタビューを行っております。

今回は、現在、木曾川右岸用水土地改良区連合事務局長をされている三品俊宣様に話を伺いました。

Q1 いつもお世話になっております。早速ですが何代目の事務局長になられますか。

A1 私で9代目になります。

Q2 木曾川右岸用水土地改良区連合（以下「右岸連合」）の業務内容はどのような内容でしょうか。

A2 右岸施設のうち水資源機構（以下「機構」）の委託を請けた86kmの支線水路及び6箇所の揚水機場の委託管理を行っています。これを利用し7市町へ配水をしています。

Q3 最近の管理状況についてお気づきの点を教えてください。

A3 岩屋ダム運用のVカットの見直しをお願いしたい。特に回復期の傾斜を垂直にしてもらえないでしょうか。

徳山ダムの木曾川水系連絡導水路が具体的になってありがたいと思っている。

PC管の劣化については、いつ漏水が発生するか職員も心配している。どういうわけか休日及び夜中に発生しており体制が大変です。

Q4 農産物の変化等でお気づきのことがあったら教えてください。

A4 ハウスもの、特にイチゴ、きゅうりが増えました。また、花卉栽培が多くなりました。この地方の特産として堂上蜂屋柿の生産が増えました。

2007年3月20日に開催された「食の世界遺産味の箱船」にも出品し、認定され生産が活性化しました。

現在、梨観光農園が6軒有り始まっています。生育に関しては、散水ができるようになって生産も安定しています。またハウス物の関係で冬も水を用いています。

Q5 今後、水機構に期待や注文等望まれることをお願いします。



みしな としのり  
三品 俊宣 氏 (63歳)

## ■プロフィール■

平成16年3月 美濃加茂市水道部長を退職  
平成16年4月 土地改良区連合事務局長就任  
平成18年4月 土地改良区連合事務局長就任現在に至る。

A5 蜂屋調整池のアオコ対策をお願いしたい。農業用水ではあまり影響がないと思われるが、珪藻の死滅した殻が残って冬場イチゴ栽培のフィルタに詰まってしまう苦情がきているので、その対策をお願いしたい。

今年から加茂農林高校とタイアップして、右岸連合、水機構で取組を開始するよう動き出しました。加茂農林高校林業工学科生徒の若い考え方を取り入れ、アオコ対策に取り組んでいきたい。

機構 どうもありがとうございました。

インタビューにご協力頂き、誠にありがとうございます御座いました。



堂上蜂屋柿